

令和7年度 小樽市立高等看護学院関係者評価委員会会議 議事録

I. 日時 令和8年3月25日(水) 10:00~11:00

II. 場所 小樽市立病院 病院業務管理センター2階 大会議室

出席者: 済生会小樽病院みどりの里 看護部長 大橋 とも子様

小樽市立病院 事務部長 安部 俊克様

小樽市立高等看護学院同窓会会長 村上 圭子様

小樽市立高等看護学院 学院長 馬淵 正二

〃 事務長 荻原 美貴

〃 副学院長 佐藤 節子

〃 教務主幹 日達 泉

III. 会議次第

1. 学院長よりご挨拶

2. 令和7年度の学校評価

議長(委員長): 村上 圭子様 副議長(副委員長): 安部 俊克様

1) 自己評価結果

2) 評価項目についての実績報告

3) その他~授業アンケート結果ほか

【質問・意見】

・学生確保について

少子化の影響から学生確保が困難な状況を踏まえ、男子学生の割合が低いため、積極的に確保してはどうか。北海道は男性看護師の割合が本州より低い傾向はある。現場では男性看護師が必要な理由としては、同性の看護がニーズとしてある実態がある。

また、自己評価項目のⅧ. 地域社会・国際交流が低いことから、国際化が進んでいる社会情勢を鑑み、日本国籍のある外国人学生も積極的に受け入れしてはどうか。

⇒男子学生については近年、1割程度以上は確保できている。また、入学試験の選抜の基準に性別は問わない為、各年で変動はある。外国人学生の受け入れに関しては、国籍が日本であり、言語の問題が少なければ、特に問題視してはおらず、実際に数年前に受験し、合格者は数名いた実績もある。今後も性別や外国人であるということを選択の基準にはしないことと考えている。

また、近年は諸外国での学びや活躍する日本人看護師が多数おり、当校の卒業生も活躍している事実もある。反対に外国籍の看護師を受け入れしている病院も都市部は増えている現状もある。委員の病院にも外国籍の職員を受け入れし、サポートを手厚く行っているなどの実績もある。学校も病院も言語等の問題を少なくできるような対応が求められていることから、今後の検討事項として考えたい。

- ・スクールカウンセラーはどのような方が任に就かれているのか。

⇒公認心理士の資格を持ち、学校保健の経験を持った方を採用している。これまでは教員がすべての相談対応を行っていたが、学生の立場から、評価に関連しないものが関わることで心理的安全性の確保にもつながると考えるため、今後も継続していけるようにしたい。

以上、いただいた意見について検討し、改善するようにいたします。